

T O P I C S

平成19年度北海道支所一般公開報告

初夏の訪れを教えてくれるラベンダー等の花々が咲く7月7日（土曜日）、「未来につなぐ農業技術」をテーマに北海道農業研究センターとの共催で一般公開（9時30分～16時）が開催された。当支所の展示テントは例年どおり北農研庁舎正面玄関脇というベストポジションで、広報委員会を中心に準備が進められ当日を迎えた。研究活動紹介パネルの展示、細菌や組織の顕微鏡による観察、パンフレット（支所の使命、組織、研究活動等を紹介）の配布、アンケートの実施及び動物衛生研究所紹介ビデオの上映等により、動物衛生研究所及び北海道支所の使命・業務と細菌・ウイルス・生化学・病理分野の研究内容について説明を行った。気温25℃、湿度40%台、北西の風3m/sのすがすがしい好天にも恵まれたためか、来場者は3,616名（対前年比872名増）を記録したとのことである。

また、聴診器でウサギの心音を聞いたり、ウサギを抱いてプリントシール撮影を行うことを通じて動物愛護を実感してもらった「ウサギとふれあい知る広場」は、もはや当支所コーナーではメインイベントといってもいいほど好評であった。会場では粗品付アンケートを実施し、144枚を回収した。その結果の一部を紹介する。回答者143名のうち約7割が北海道支所の存在を認知していた。牛の乳房炎により日本では年間数百億円以上の損失（推定）があることを知っていた方は約3割弱もあり、北海道における乳房炎への関心の高さに驚いた。その他の病気として認知度が最も高かったのはBSEという結果であった。

最後に、安心できる食料に対する関心が高まっている昨今、安全な畜産物を提供するために動物衛生

研究所及び北海道支所が行っている様々な業務・研究活動の一端を、限られた人と時間ではあったがお伝えすることができ、一方で関係者各位のご理解とご協力を得、研究需要に即応し、より良い成果を産出するよう、支所（研究チーム）全員が一丸となって取り組むべきことも実感した有意義な一日であった。（北海道支所）

